

不必要な薬剤の漫然投与回避

プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は患者の症状や経過を観察することで、不必要な薬剤の漫然投与回避に貢献できた事例のプレアボイドを紹介いたします。

Mさん

患者背景

▶変形性肩関節症に対する手術目的で入院中の患者

【持参薬】	アンブロキシール錠（15 mg）	1回1錠	1日3回	毎食後
	カルボシステイン錠（500 mg）	1回1錠	1日3回	毎食後



こんにちは。



Mさんこんにちは。
薬剤師



術後の痛みも落ち着いてきたみたいですね。
そのほか体調はいかがですか？
入院されたときは、咳が辛そうでしたね。



ほかに気になることはないですよ。
咳は、入院してからはほとんどなくなってるんです。



そうですか。
咳の症状がないようでしたら、これ（アンブロキシール）と
これ（カルボシステイン）は続けなくてもいいかなと思いま
すが、いかがでしょうか。



飲まなくていいなら、お薬は少ないほうがいいです。



わかりました。では主治医に相談してみますね。

主治医に情報提供後、アンブロキシール錠とカルボシステイン錠は中止となった。患者の状態を定期的に観察することで、不必要な薬剤の漫然投与回避に貢献できた。